

④ 緊急時引渡しのサポート

大雨等での引渡しの際、車輛を誘導し安全に引き渡すことができるようにする。



先生方の人数も少なく、スムーズな引渡しに貢献したく、番屋塾の集まれるメンバーで協力させてもらっています。先生方と協力し合い少しでも早く引き渡せるよう活動しています。(保護者 H)

(3) 学校との連携による生活指導の充実

学校の教育方針をもとに家庭内実践に取り組むことで、喫緊の課題に対する認識や家庭の教育力向上を図る。

① ノーメディア&ファミリー読書の日 (毎月 23 日)

家族でメディアへの関わり方を考えたり、読書を通してふれあったりする。



TVなどを消して、娘がお勧めの本を読んでくれます。学年が上がるにつれて、文章の長い本を選んだり、感情を込めて読んでくれたりして、成長を感じられることがうれしいです。(保護者 I)

② 学校保健委員会

SNS等でのモラルや防犯意識を高め、正しくSNS等と関わる力を親子で学ぶ。



親子でSNSを通じた人権や犯罪、携帯の使用上のルールなどについて学ぶ機会があり、親子だけでなく親同士でも共通意識をもつことができたことは大変意義があると思います。(保護者 J)

(4) よりよい保護者となる研修の推進

教育的課題や関心などについて、講話や視察研修を意図的・計画的に取り組む。

① 家庭教育学級

講話や視察を通して、会員相互の教養を高める。



LGBTや立腰等の講話、視察研修に積極的に参加しています。研修を通して、子どもへの見方が変わったり課題を共有でき安心できたりなどたくさんの新しい気づきや発見があります。(保護者 K)

(5) 会員の積極的参加と親睦の充実

家族間の交流を通して、親子の思い出づくりをするとともに学校やPTA活動への愛着を高める。

① 納涼祭り、レクリエーション、餅つき会

親子でかかわり合うことで、親子で学校や学級への所属感を共有する。



※ R2、3は
コロナ禍で中止

準備は大変ですが、子どものために全保護者で取り組むので達成感があります。餅つきは、親子で力を合わせて作り上げるので貴重な時間です。どれも大盛り上がりです。(保護者 L)

② PTA新聞の発行

年に3回、学校行事等の様子や教育、地域に関する話題を紹介する。



PTA新聞が、家庭や地域でのコミュニケーションの一つのきっかけになるといいなあと思って作成しています。(保護者 M)

4 コロナ禍での PTA 活動の工夫

コロナ禍で PTA 活動も中止となるが、それでも何か学校に貢献できないか、子どもの思い出を作れないか考え工夫する。

(1) 参観日での検温サポート

玄関での検温サポートをすることで、参観日の運営を円滑にする。



(2) 運動会での観戦区画の工夫

ソーシャルディスタンスを意識した観戦の在り方を工夫する。



(3) 8月の納涼祭中止でも考え工夫

納涼祭中止決定後、どうにか夏の思い出づくりに貢献したいと登校日に「輪投げ大会とプレゼント」で30分程度のミニ納涼祭を企画した。しかし、感染状況拡大のため中止となった。せめて「プレゼント渡し」だけはと、2学期がスタートした下校時に実施した。その際、PTA 会長がプレゼントへの思いと子どもたちへのエールを放送で伝えた。



学校生活の中で、思い出をどれだけつくって残していくかをいつも考えています。子どもたちの楽しむ姿、喜ぶ笑顔をつくっていく PTA 活動であり続けたいと思います。(保護者 N)

5 PTA 活動への評価

(1) 子どもにとって (6年生より)

どの PTA 活動もわたしたちの安心で楽しい学校生活を支えていて、改めて感謝をしたかった。そして、学校生活を一生懸命がんばりたいと思った。

(2) 保護者にとって

長年続くたくさんの活動のおかげで、先生方とも密な関係を築くことができ、保護者も一丸となって円滑に活動に取り組むことができている。

(3) 学校職員にとって

保護者の「FOR YOU (学校)」の行動は、安心安全な学校運営を支えている。それは、教職員の働きやすさや職務専念などのやりがいにもつながっている。

6 今後の PTA 活動の工夫・改善

(1) 人材育成

PTA 戸数の減少に伴う人材不足が生じる。保護者が見通しや当事者意識をもって6年間の PTA 活動に取り組むことができるよう役員選考方法を工夫する。

(2) 学校運営協議会と PTA の連携強化

学校運営協議会をもとに、PTA が担うことを再確認し、無理なく貢献できる PTA 活動の工夫改善を図る

(3) コロナ禍における PTA 活動の在り方

活動中止等で希薄になる会員同士の関係づくりの工夫や加速する ICT 教育の研修に努め家庭の教育力の向上を図る。

7 おわりに

なぜ PTA 活動をするのか、改めて問うことで、やりがい感や有用感を自覚できた。それは、どんなに時代が変容しても、人と人とのつながりが、自他の幸せ (安心安全な学校) を生み出すという実感である。今後も学校と家庭が互いに貢献し、子どもの幸せ = 未来を育めるような PTA 活動でありたい。